

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「生き生きとぬくもりのある暮らし」を共有し、利用者を家族と生活するという視点に立ち積極的に地域との交流を図り、その人らしいケアに取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの取り組みは、積極的に実施しているが、理念の中に地域という内容が折り込まれていないため、検討していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、朝のミーティング時に理念の大切さを職員と話し合い、日々のケアに活かした支援ができるよう常に意識して取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所全体が発行するやすらぎ季刊誌や校区社協だより「いきいき山田」に理念を掲載し、地域や家族に配布し説明を行っている。玄関やホーム内にも理念を掲示し協力や理解してもらえるようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に買い物や散歩・古里訪問などに出かけ、隣近所や知人と気軽に交流ができる様に努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民との合同行事(夏祭り、敬老会、夜間総合避難訓練)を実施している。地域が主催する(生き生きサロン、案山子祭り)地域活動や地区の小学生との交流を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	小学生の職場体験学習を受け入れや地域と一緒に夏祭り、敬老会を実施している。	○	事業所として地域の暮らしに貢献する取り組みとして施設の温泉開放(日曜日)や学童保育のボランティア活動について検討中である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は評価の意義や目的を職員へ伝え、全職員で自己評価に取り組んでいる。また、前回の外部評価の結果を職員会議やミーティングで話し合い改善に取り組んだ。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の取り組み状況や自己評価、外部評価の結果を説明し、明らかになった課題について意見をもらいサービス向上に努めている。	○	地域で実施している「山田の里かかしまつり」に利用者と一緒に作り、出品した。 運営推進会議を生かした取り組みとして「自主防災組織」を作った。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年度から発足した地域包括支援センターの担当職員の出席のもと、市町村の考え方やホームの取り組み等の実情を伝える機会をつくり、行政と一緒に取り組んでいる。運営を行っていく上で、生じる問題点について随時、市町村担当者と気軽に訪問や電話により相談、連絡を取り合っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入所前より、本人・家族との契約により「地域福祉権利擁護事業」制度を利用されている援助者もあり、職員も制度について理解しており、利用者の支援に結び付けている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所全体で虐待防止委員会を設置し、定期的な勉強会を実施している。委員会の中で、個別ケアプランに基づいた一連のマニュアルを作成し、身体拘束や虐待のない介護に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書や利用契約書を時間をかけて、具体的に説明し同意を得ている。 家族とも納得の上で契約書を取り交わしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者同士の会話の中から、その思いを察し日々のケアに生かしている。 食事やお茶を一緒に楽しみながら思いや意見を聞きケアに生かしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にホームだよりと共に本人が描かれた絵手紙などを添えて郵送している。 健康状態については、家族の面会時や電話で報告している。金銭管理については、面会時に家族に出納帳を明示して説明しサインをもらっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、必ず利用者の日々の暮らしぶりを伝える機会をつくり、気軽に意見を出してもらえる場面作りをしている。また第三者委員会の設置や契約時の説明、重要事項説明書に記載している。意見箱を玄関口に設けている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議には、事業所の代表である園長にも出席してもらい、職員の意見や要望を聞いてもらう機会を設けている。管理者は毎日のミーティングや日頃からコミュニケーションを心がけ、遠慮なく話してもらえるよう努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は、利用者の状態の変化や夜間の対応、突発的な休みにも対応できる様、フリー体制をとっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は、開設以来のメンバーで定着しており、利用者との馴染みの関係作りができています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、事業所内外の研修が受けられるよう法人全体で計画的な学ぶ機会を提供している。地域密着型サービスについて全職員が共有できる様、外部評価機関による研修を実施した。	○	「生き生き働くためには」「認知症について」「身体拘束について」などの法人内の勉強会を実施している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区のグループホーム連絡協議会の主催する研修等に管理者や職員に積極的に参加の機会を作り、地域の同業者との事例発表や意見交換等を通して質の向上に繋げている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者(法人代表者)は、職員、管理者と日常的に気兼ねなく話し合う機会を作り、ストレスや悩みを把握し改善に努めている。また、他の事業所との職員と一緒に習い事を行っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者(法人代表者)は、ホームに来て利用者と一緒に過ごしたり野外活動にも参加し、利用者や現場の状況をよく知り、日頃からの努力や活動内容を十分に把握している。職員の資格取得については、様々な研修の参加や勤務計画に配慮した体制を取っている。	○	資格取得者には、賞与に反映する体制を昨年度よりとっている。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時は、必ず本人とゆっくりと時間かけた事前面談を行い、実際に困っていることや些細な事柄についても本人の意見を丁寧に聴き生活の全体像を把握するように努め、本人、家族の思いを受け止め信頼関係づくりに繋げている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の介護の苦労やサービス状況、日々の様子などこれまでの経緯を時間をかけてゆっくりに聞く様にしている。今後についても家族の希望や思いを十分、理解し信頼関係に繋げている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合、本人、家族の思いや状況をよく聴いた上で、当面必要と思われる支援を本人や家族と話し合いショートステイや他の事業所のサービスへつなげるなどの対応を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談や利用に至っては、本人や家族と一緒に見学に来て頂き、お茶飲みやレクリエーションに参加してもらいながら、利用者や職員とふれあう場面を設け、顔馴染みの関係作りや安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中から、利用者の話や行動から潜在的に「できる」ことをみきわめ、共に支えあえる関係作りに努めている。利用者一人ひとりが、生活歴が豊かであり、得意な伝承料理、園芸、踊り等を教えていただいたり、互いに学び合う関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人を支える家族との協力関係を共有するため、利用者の様子や思い、職員の気づき等を面会時や電話などでお伝えし、職員と家族が同じ思いで支えていく関係づくりに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生会や行事などには、家族と一緒に食事をして頂き、よりよい関係作りに努めている。遠方の家族には、日々の生活や本人に描いてもらった手紙(絵手紙)などを添えて送っている事で家族との関係が密になっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古里訪問や地域の行事(生き生きサロン)、買い物により、知人・友人などに会いに行ったり交流ができています。また、昔から行きつけの美容院の利用や各自の希望により、利用できるよう馴染みの関係を大切にしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、食事やお茶の時間には利用者との間に入り話を聞いたり、会話を待つ様になっている。レクリエーション(風船パレー、歌など)を通じて利用者全員が毎日楽しく過ごしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設の施設へ移られた方にも、利用者と一緒に面会に行ったり、事業所の方へも遊びに来てもらっている。又、家族にも遊びに来てもらったり相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話から利用者の願いや思いを把握するように努めまた、利用者間との話を聞いたりして情報を得るようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族から情報を得たり、カンファレンスでサインや発見を話し合い検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に、利用者一人ひとりのこれまでの暮らしぶりやサービス利用に至った経過をゆつくりと時間をとり、本人や家族からそれぞれ聴くようにし把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活習慣や日課、心身状態を職員間で共有しあい、本人の全体像を把握している。できることに着眼し、家事活動や趣味活動などに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の暮らしに寄り添いながらかわることで本人の意向や思いを感じとるように努めている。本人・家族の要望や思いを聴き、また職員会議やカンファレンス等でモニタリングや意見交換を行いその人らしい介護計画に反映するようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間に応じた見直しを行っている。個々の状態変化に応じ、本人・家族の意見や希望を基に主治医や職員と話し合い実情に即した計画を検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や支援経過記録は、個別に水分・食事量・排泄・健康状態・日々の生活の様子を記録し、情報の共有に繋がっている。支援経過記録は、日中(黒)・夜間(赤)と色別にして、見易いように工夫している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自主サービスとして、古里訪問や本人・家族の希望により、外出支援、通院介助等の支援を行っている。介護保険サービスとして、日常の健康管理や状態変化に対して24時間連絡体制により、医療ニーズへの対応をとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の指導の基に、地域住民と職員による総合避難訓練を行っている。 ボランティア(絵手紙教室)や民生委員(生き生きサロン)との交流を図っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の開催する健康体操やゲートボール等の競技に利用者と一緒に参加している。 本人の希望に応じて送迎付きの美容サービスや地域のボランティア(話し相手やレクリエーション支援)を受けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に市町村、地域包括支援センターの職員が参加する様になり、回を重ねるたびに理解や協力関係を築いている。権利擁護サービスは、社会福祉協議会との連携を図り、本人の支援につなげている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医や本人、家族の希望する複数の医療機関により、定期的に訪問診療に来てもらっている。通院介助の場合、本人・家族の同意や納得を得て支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設の施設に認知症の専門医が定期的に療養指導を行っており、認知症に関する治療方針や助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護資格を持っており、かかりつけ医や協力病院との連携により、健康管理や状態変化に応じた24時間連絡体制をとっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、かかりつけ医の紹介状や管理者が中心となり医療機関との情報交換を行い、利用者・家族に安心してもらえるように対応している。検査による1泊入院のみで、長期入院をする利用者はみられなかった。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応指針は作成していない。日常の健康管理や状態の悪化時に対して、協力医療機関や主治医との連携により、医療ニーズへの適切な対応を24時間連絡体制を取り、急変時にもすぐ対応している。	○	今後、検討していく予定である。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期を迎えるにあたっては、家族によっては考え方はさまざまであるため、本人・家族の意向を確認しながら家族側とグループホーム及びかかりつけ医と密に連携をとり対応している。急変した場合にも、24時間連絡体制により対応している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	併設の施設へ1名の方が移られた際、これまでの暮らしの継続性が保たれるようにこれまでの生活やサービス内容、情報提供を行い住み替えによるダメージを少なくしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所全体で人権擁護委員会を設け(プライバシー保護、尊重した言葉使い、尊重した態度)を努力目標に掲げ、定期的な勉強会を行い、徹底を図っている。個人情報の取り扱いに対しても全職員が理解し、十分配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望や思考に合わせて、朝はパン食、コーヒーなどのメニューにしている。 自己決定ができない利用者には、表情や雰囲気などを読み取り、本人の希望に添える様に努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、利用者一人ひとりのペースや気持ちを尊重した支援を行っており(絵描き、買い物、家事活動)等、利用者の希望に添って支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望により、以前からの馴染みの美容室を利用し、カット・毛染め等行っている。 本人や家族の意向により、家族や職員がカットする事もある。 自己表現できない利用者には、職員と一緒に言葉かけしながら手伝っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭先にある山菜や食材を利用し、調理方法を聞いたり、相談しながら食事作りを一緒に行い、職員も利用者の間に入って同じ食事をとっている。時には、屋外での食事を楽しんでいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶時間には、利用者の嗜好物にあわせて、コーヒー、梅シロップ、紅茶等を楽しんでもらっている。おやつは、職員と一緒に手作りしたラッキョウ漬け、ふくれ菓子等を日常的に採り入れるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツを使用している利用者はみられない。日中は、声かけや見守りにより利用者全員のトイレでの排泄を支援している。夜間は、排泄チェック表や一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレやポータブルトイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉入浴をお好きな時間にゆったりと入浴して頂くため、終日解放している。 一人ひとりの希望に合わせ、回数・時間帯・順番等は、本人と相談しながら対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は屋外活動、レクリエーション、趣味活動を勧め、一人ひとりの生活リズムを作り安眠につなげるようにより眠剤等は使用していない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や希望、趣味などを把握し、絵画、地域の行事、買い物、レクリエーション、ドライブ等の楽しみや気晴らしのできる支援を実施している。また、本人の得意とする食事作りや園芸、掃除などをお願いし、役割や場面作りに努め、感謝の言葉を伝えている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の希望や力により、小遣いを所持してもらったり、家族から小額を預かり、買い物時に自分で支払っていただけるようにサポートしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の本人の心身状態や希望により、買い物、散歩、併施設へ面会に行くなど日常的に外へ出かける機会を作っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段、行けない所への外出については、利用者に聴いたり職員間で話し合いを行い、早くから計画し勤務調整をしながら、家族にも協力をもらい花見会、ソーメン流し等へ出かけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者に書いて頂いた年賀状(絵手紙)や手紙を出している。電話がきたり、かけたりする際は、子機使用により気兼ねなく、話をして頂く為に居室を利用している。家族が県外在住の方は、手紙のやりとりができるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に、面会時間は設けておらずいつでも訪問して訪ねて来ていただけるようにしている。訪問時には、気兼ねなく過ごしていただけるようにできるだけ、本人の居室でゆっくり過ごしてもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所全体で身体拘束委員会を設け、身体拘束がもたらす弊害や事例を取り上げ定期的な学習会を行い、十分理解し身体拘束の無いケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はできるだけ、鍵をかけないケアに努めている。利用者が、外出されそうな状況を見逃さないため、見守りや玄関の両ドアに「ドアチャイム」を設置し、外出の気配を察するようにしている。併設施設との連絡関係もできている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、日中ホールで利用者と会話をしたり、記録等を行い、利用者の状況把握に努めている。夜間帯は、時間ごとの巡視や物音状況により、対応できるようホールで見守りを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類は、保管場所に刃物の本数が確認できるように本数表を張って管理しており、夜間は利用者の目のふれない場所に保管している。はさみ・針等を使用する際は、一人ひとりの状況に応じて見守りや一緒に作業を行っている。薬剤は、利用者の目に触れない場所に保管し、夜間は施錠している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの心身の状況等から危険を予測し、未然に防止できるよう工夫した取り組みを行っている。自己発生時の対応手順や急変対応マニュアルを作成し、併設施設の看護師による救命講習会等で知識を学び事故防止に努めている。事故やヒヤリハットの記録や事故報告書を作成し、職員間で再発防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力により、事業所全体による心肺蘇生術(実技含む)、研修や併設の看護師による応急手当などの勉強会を実施している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の基、地域住民の参加による、総合避難訓練、風水害対応講習、夜間想定消火避難訓練などを実施している。また、消防署との協力により、毎月の通報訓練や定期的な消防用設備等の総合点検を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	その人らしい暮らしを支援するように、契約時や訪問時には事業所としての方針を説明し、リスクについても理解を得られるように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日(朝・夕)のバイタルチェックを行い顔色や表情、食欲状態等の把握をし、異変の発見に努めている。状態によりかかりつけ医に報告し、往診や適切な指示を受けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬剤提供用紙をもらい、ファイルに整理し、効能・用量・副作用を承知した上で主治医の指示のもとで服薬支援を行っている。服薬時は、直接本人に渡し服薬確認を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ヨーグルト・牛乳・オリゴ糖・水分摂取・野菜・寒天などを取り入れ、便秘予防に取り組んでいる。 生活リハビリなどの活動に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、義歯の洗浄やブラッシングの声かけを行い、一人ひとりの力に応じた介助や声かけ・見守りを行い、就寝前はボリデント洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の管理栄養士より、年1回の栄養スクリーニングを実施し、栄養リスクを把握している。 随時、献立のチェックや栄養バランスなどのアドバイスをうけている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所全体で感染予防対策委員会を設け、定期的に学習会を実施している。 入所時は、健康診断で感染症チェックを行い、インフルエンザは、本人・家族の同意の基、職員と共に予防接種をうけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾、包丁、まな板などは、毎晩漂白や熱湯消毒を行っている。 冷蔵庫や冷凍庫の残り物の点検を行い、毎週(土曜日)に清掃をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や入口には、季節の花を植えたプランターや観葉植物、ベンチを置き親しみやすい雰囲気づくりに心がけている。 安全面にも配慮し段差のない建物となっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は柔らかい間接照明を設置し、光や音に対しては利用者の状況によりその都度調整している。玄関には季節の草花や職員手作りによる生活感を採り入れた飾りつけを工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士や一人でも自由な時間を過ごしてもらえるように、ホールのソファや玄関先、廊下にテーブル・椅子を置きくつろげる場所を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人に安心して過ごしていただけるように、家族に協力をもらい、使い慣れた(布団類、写真、ダンス、絵画等)を持ってきたりしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の掃除の際、利用者と一緒に居室やホールの窓を開けて空気の入れ替えを行っている。ホール内に設置してある温度計や利用者の状況をみながら快適な温度調整に心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全確保や自立支援を支えるために廊下、トイレ、浴室等に手すりを設置している。利用者の身体機能にあわせて、移動バーの設置や転倒防止を図るために、床や浴槽内に滑り止めマット等の工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや居室などの途惑いやすい場所には、利用者の目線に合わせた貼り紙や名前、似顔絵を書いた表札等を工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置いて、日常的に日なたぼっこや洗濯干し、バイキング等楽しめるように活用している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは、豊富な天然温泉（炭酸水素塩泉）となっており、毎日の温泉入浴が利用者の楽しみとなっております。また、神経痛や関節炎等の軽減につながり 5 年前の開設時から職員の入れ替わりもなく、馴染みの職員が 24 時間体制で利用者のサポートにあたっております。なかでも「食」にあたっては、調理師や食生活推進員等の資格を持つ職員が中心となり、郷土料理を利用者に教わりあいながら一緒に作っており、また、「憩い」の場では、ボランティア指導による絵手紙教室を毎月実施しており、回を重ねるごとに上達され、その日の出来事や近況つづりに新たな生き甲斐を見い出されています。今後も、認知症の利用者の方々が、自分らしく喜びのある毎日を過ごして頂けるように地域との交流を更に充実させ、努力して行きたいと考えています。